

竹の音色に耳を澄ませて 台湾バンブーオーケストラ演奏会

竹で作った楽器を使って演奏する台湾の楽団・台湾バンブーオーケストラが10月28日に東間小と第二中で演奏会を開きました。本市と包括連携協定を結ぶLOCALTOLocal株式会社との縁で実現。

楽団は、竹で作られた楽器の竹琴や笙などで台湾の民謡曲やオリジナル曲を演奏。最後に児童もよく知る『となりのトトロ』の主題歌などを演奏し、会場を盛り上げました。東間小5年の東尚都さんと平川愛姫さんは「竹で作った楽器からいろんな音が出てすごい」と話しました。



同楽団が日本の学校で演奏するのは初めて

人吉球磨産米をさらにおいしく 東洋ライス株式会社と包括連携協定

市では、米の精米や精米機器の開発・販売などを手掛ける東洋ライス株式会社（東京都）と包括連携協定を結びました。人吉球磨産米を活用した農業振興や食育の推進などを通じた地域社会の発展を目的とするもの。

11月15日に市役所で締結式を行い、同社取締役副社長の麻生尚輝さんは「米を通じて健康になつてもらおう当社の目標と一緒に実現したい」と話しました。

令和7年2月からモデル事業として、市内の妊婦さんに米を贈る取り組みを予定しています。



妊婦さんには独自の技術で精米した「金芽米」を贈る予定

復興とにぎわい願いイベント多彩 人吉温泉まつり



メインステージには地元の団体やお笑い芸人などが出演



多彩な食や音楽で異文化交流が楽しめた台湾マルシェ

ふるさと歴史の広場で10月27日に人吉温泉まつりを開催しました。ステージには中学生の吹奏楽や伝統芸能などさまざまな団体が出演。球磨焼酎コーナーでは試飲や焼酎カクテルの販売があり、出店も並んでにぎわいました。前日は同会場で人吉スカイランタンフェスティバルが開かれ、復興への思いやそれぞれの願いを書いたランタンが夜空を埋め尽くしました。

10月26日・27日には人吉コンテナマルシェで台湾マルシェも開かれ、来場者は食や音楽で台湾の雰囲気を楽しみました。



約350個のスカイランタンが美しい夜空を彩った

来館60万人ありがとう！ MOZOCAステーション来館者60万人達成

肥薩線をはじめ、鉄道の魅力を発信する施設として平成27年に開館した人吉鉄道ミュージアムMOZOCAステーション868。令和5年は展望デッキの改修工事で一時休館する時期がありました。11月9日に来館者60万人を達成しました。

60万人目となったのは、帰省して子どもたちとの時間を楽しもうと来館した鹿児島市の加藤さん家族。加藤さん家族には、SL缶バッジなど同館オリジナルグッズを含む鉄道にちなんだ記念品を贈呈。ミニトレインに記念乗車してもらいました。



同館2階ではSL人吉の変遷をたどる写真展を開催中

木に触れて、魅力を知って 林業教室

市や森林組合などで構成する人吉市森林経営管理協議会では、子どもたちに木に触れてもらい木の良さを理解してもらおうと、11月21日に人吉西小で林業教室を開催しました。森林環境税を活用したものです。

児童は、くま中央森林組合職員から森林の現状などを動画やクイズで学んだ後、人吉産の杉を使っていす作りを体験。事前にカットされた木材を組み合わせた後、くぎで固定したりするなどして熱心に作っていました。同教室は今後も市内の小学校で実施していく予定です。



くぎを打ち込むときに曲がってしまい苦戦する児童も

音楽の花束を球溪先生に贈る 第78回犬童球溪顕彰音楽祭



碑前祭には児童生徒ら約250人が参加

郷土の偉人で、人吉市名誉市民の音楽家・犬童球溪先生を顕彰する音楽祭を開催しました。

10月27日の小・中・高校生を対象とした個人コンクールに続き、11月14日にはカルチャーパレス敷地内にある球溪先生の銅像前で碑前祭を開催。その後スポーツパレスで開いた学校発表会には人吉球磨の児童・生徒が参加し、合唱や合奏を披露しました。17日には地元の合唱団などが出演する音楽会「音楽のひろば」を5年ぶりに開催。球溪先生作詞・作曲の作品をお客さんと一緒に楽しみました。



「音楽のひろば」で観客も一緒に「旅愁（りょしゅう）」を斉唱



個人コンクールは5年ぶりの開催